

「ヘモグロビン A1c(HbA1c)」 国際標準化への変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

このたび日本糖尿病学会よりヘモグロビン A1c の国際標準化の基本方針が平成 24 年 1 月に発表になりました。

つきましては、日本糖尿病学会の基本方針に基づき HbA1c 値は NGSP 値・JDS 値を当面併記とする運用に変更させていただく事に致しましたので、取り急ぎご案内申し上げます。

事情をご賢察の上、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

変更内容

● 新規項目

国際標準値(NGSP 値)によるヘモグロビン A1c

項目コード	項目名称	検査方法	基準範囲(単位)
517	ヘモグロビン A1c HbA1c(NGSP)	ラテックス凝集法	4.6%~6.2%

* その他検査要項は従来の項目コード519「HbA1c(JDS 値)」と同様です。

● 国際標準化に伴う現行ヘモグロビン A1c の変更内容

項目コード	検査項目	変更箇所	新	旧	備考
519	グリコヘモグロビン HbA1c	項目名称	ヘモグロビン A1c HbA1c(JDS)	グリコヘモグロビン HbA1c	NGSP 値より換算式 により JDS 値を算出 いたします。
		検査方法	ラテックス凝集法 (計算法)	LA	

換算式

* $JDS \text{ 値}(\%) = 0.980 \times NGSP \text{ 値}(\%) - 0.245\%$

● 変更期日

平成 24 年 4 月 2 日(月) 受付日分より



● ご依頼方法と報告形態

日本糖尿病学会の「平成 24 年 4 月より国際標準値 (NGSP 値) の使用を開始し、当面の間は JDS 値も併記する」という基本方針に基づき、弊社にてご依頼方法と報告形態を下記の様に致します。

- ① 項目コード 517 「HbA1c (NGSP)」 ご依頼の場合は項目コード 519 「HbA1c (JDS)」が自動追加されます。
- ② 項目コード 519 「HbA1c (JDS)」 ご依頼の場合は項目コード 517 「HbA1c (NGSP)」が自動追加されます。
- ③ 報告は自動追加により NGSP 値と JDS 値の両方をご報告致します。
*ご請求は、項目コード 517 「HbA1c (NGSP)」のみとさせていただきます。

尚、特定健診の結果報告は当面の間、従来通り項目コード 519 「HbA1c (JDS)」のご報告・ご請求と致します。

糖尿病診療に用いる HbA1c 値の変更内容

● NGSP 値ならびに JDS 値での判定値一覧

項 目	HbA1c(NGSP)	HbA1c(JDS)
基 準 範 囲	4. 6%~6. 2%	4. 3%~5. 8%
診 断 基 準	≥6. 5%	≥6. 1%
コントロール目標値	<6. 9%	<6. 5%
糖尿病疑いが否定できない	6. 0%~6. 4%	5. 6%~6. 0%
将来の糖尿病発症の高リスク群	5. 6%~5. 9%	5. 2%~5. 5%

1) 記述上の表現

NGSP 値で表記された HbA1c は、「HbA1c (NGSP)」と記述する。また、従来の JDS 値表記の HbA1c は「HbA1c (JDS)」とする。

2) 運用上の注意

平成 24 年 4 月 1 日以降、表示・印字されている HbA1c 項目名表現が上記の運用指針と異なる場合には、NGSP 値か JDS 値かが明瞭且つ簡便に判別できるようにする。

3) 糖尿病の診断

平成 24 年 3 月 31 日までは、従来の JDS 値を用いて診断し、6. 1%以上を糖尿病型とする。

平成 24 年 4 月 1 日以降は、NGSP 値を用いて診断し、6. 5%以上を糖尿病型とする。

4) 特定健診・保険指導

システム変更や保健指導上の問題を避けるため、平成 24 年 4 月 1 日~平成 25 年 3 月 31 日の期間は、受診者への結果通知及び保険者への結果報告のいずれも従来通り JDS 値のみを用いる。平成 25 年 4 月 1 日以降の取り扱いについては、関係者間で協議し検討する。

- * 日本糖尿病学会「日常臨床及び特定健診・保健指導における HbA1c 国際標準化の基本方針及び HbA1c 表記の運用指針」より引用